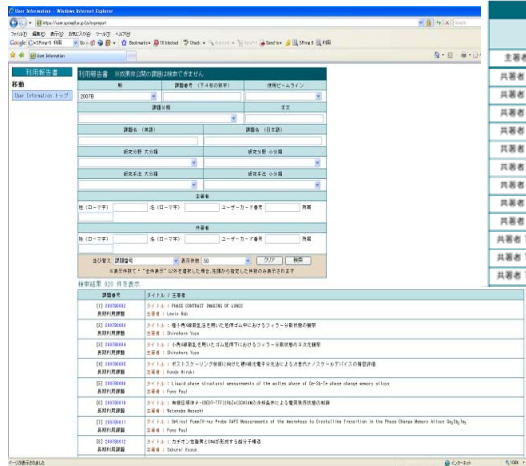


# 登録機関業務／利用支援 ①情報支援、講習会等開催

## 利用報告書公開 (検索システム)



## 発表論文検索システム



## 技術情報、利用情報



- ◆技術情報、利用情報提供
- ◆利用研究成果提供
- ◆利用者情報支援システム
- ◆講習会・研修会・ワークショップ等開催

## 利用者情報支援システム

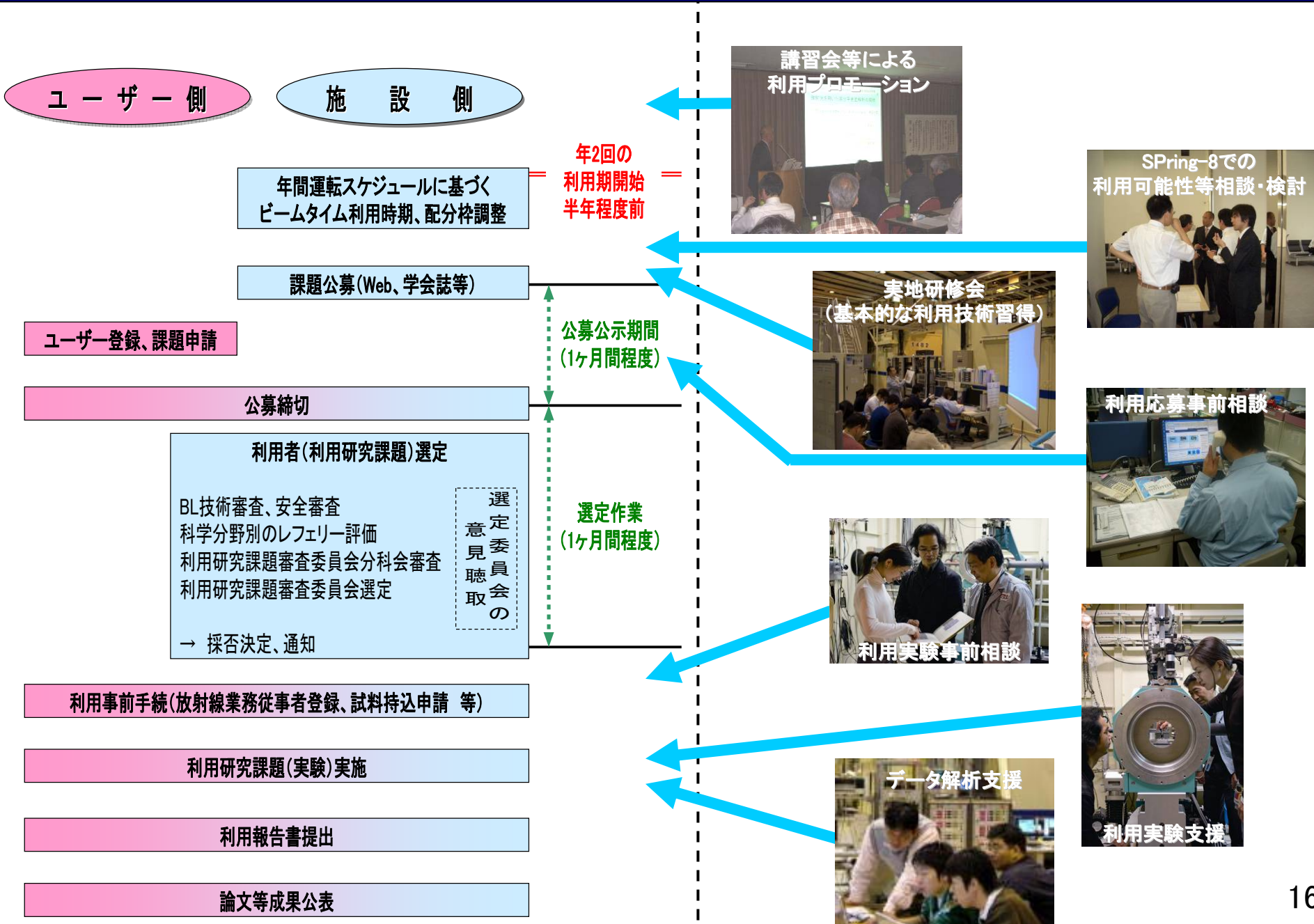


## 講習会、実地研修会等の開催





# 共用BL利用・支援の流れ

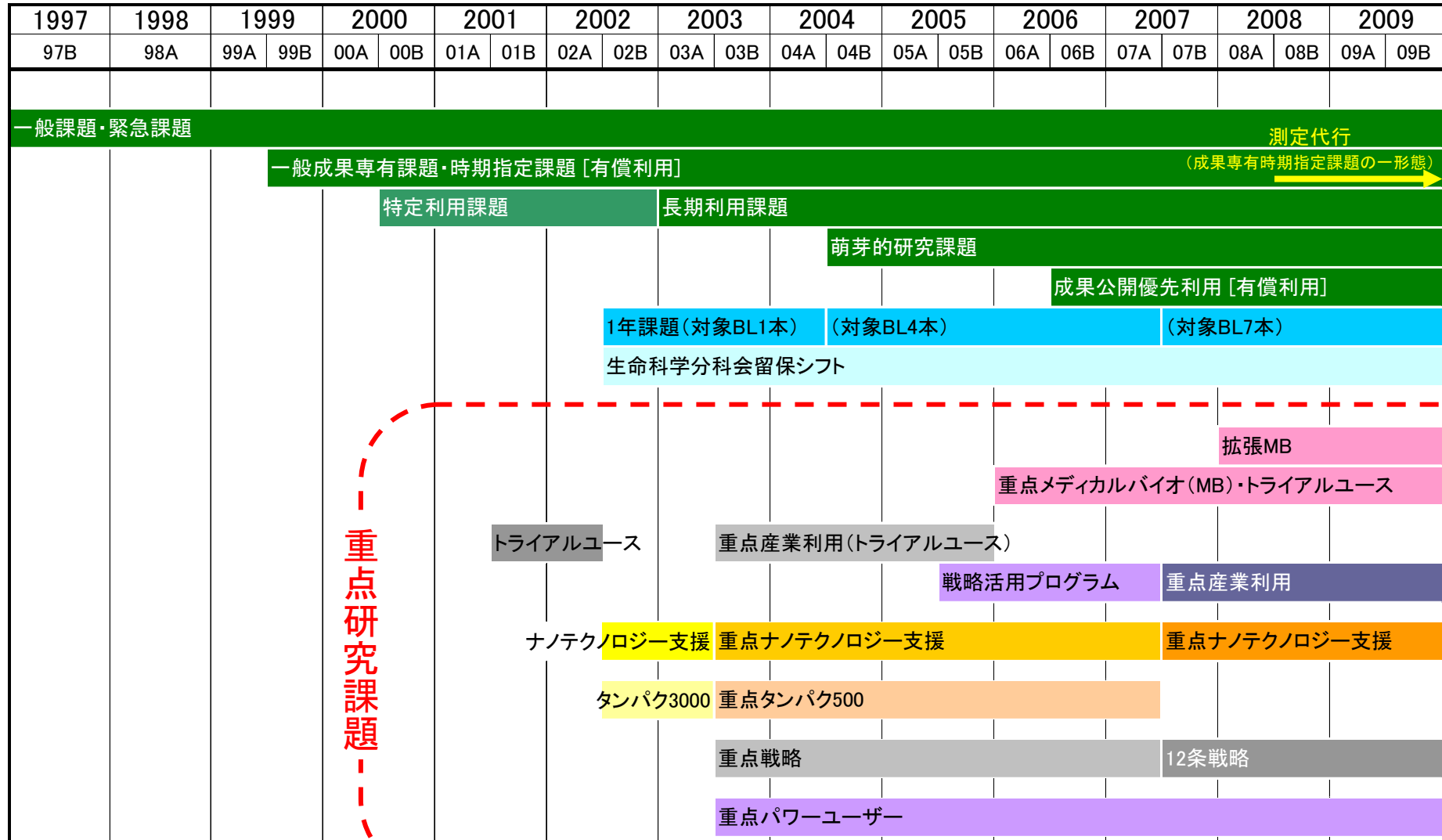


# SPring-8利用制度

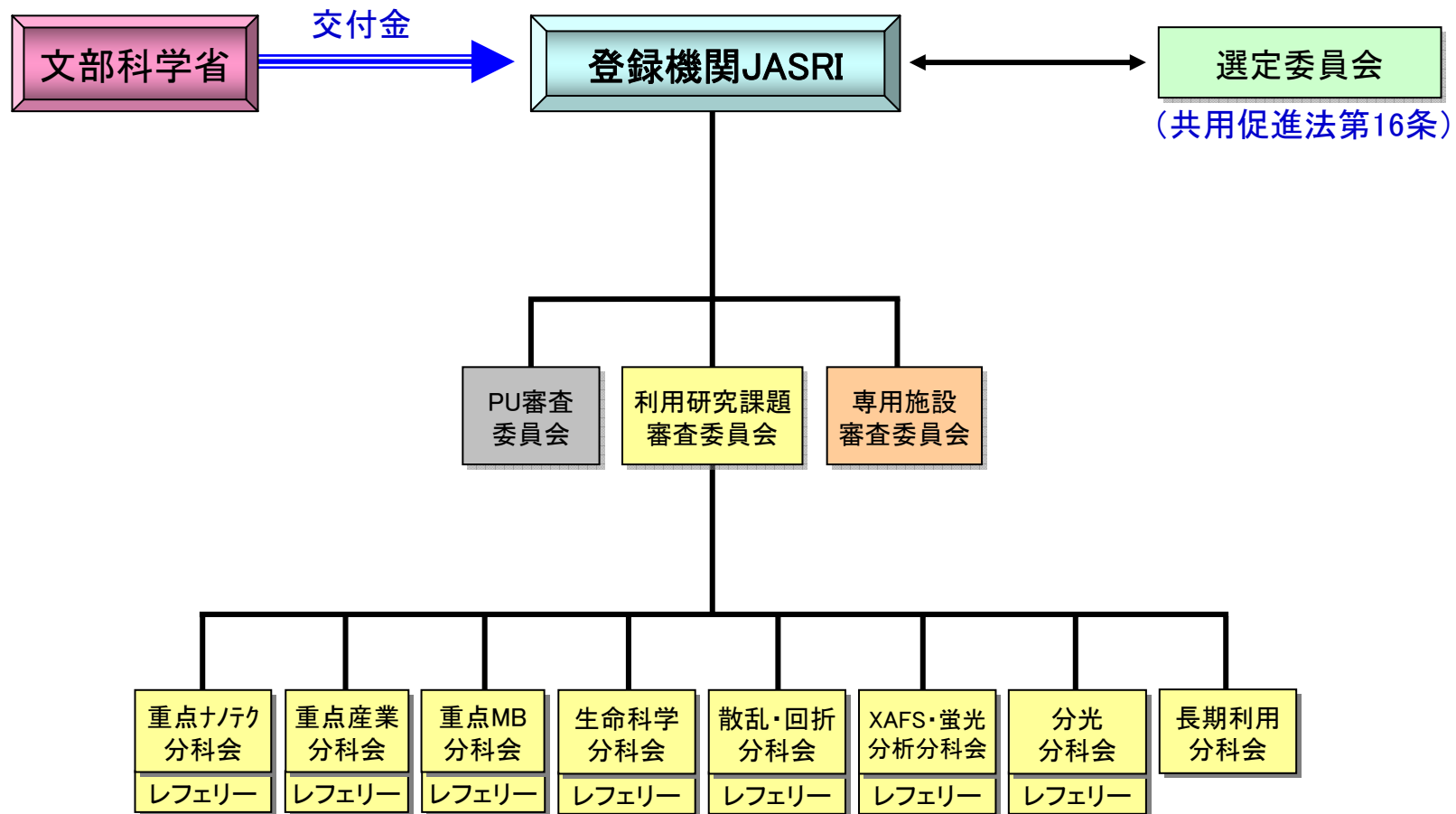
# 利用者選定及び利用制度の変遷

- 平成9年10月の供用開始以降平成14年度までの共用BLにおける利用制度は、平等、公平に多くの研究者に時間を配分することに主眼
- 平成13年下期より、産業利用に特化した共用BLの稼働開始に合わせ、産業界の利用初心者や未経験者の利用を促進するための施策「トライアルユース」を開始。  
また、利用研究課題選定において産業利用の観点を重視した「産業利用分科会」を設置。
- 平成14年9月、国(科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会)により取りまとめられた「大型放射光施設(SPring-8)に関する中間評価」において、利用者選定及び利用制度に関し
  - ◆ 戦略的な研究の推進
  - ◆ 成果を重視した課題選定  
を行うべきと提言
- 「産業利用促進トライアルユース」や、平成14年度より導入した国のプロジェクト「タンパク3000プロジェクト」や「ナノテクノロジー総合支援プロジェクト」を背景に、平成15年度より従来のシンプルな利用制度を一新し、大きく「**一般利用研究課題**」と「**重点利用研究課題**」に二極化。
- 施設性能を最大限引き出すために、平成15年度より利用者指定制度(パワーユーザー制度)を重点利用の一つとして導入。
- 専門の放射光利用スタッフを確保することが困難な企業の利便性拡大等を図るため、実験試料をSPring-8へ送付し、SPring-8(JASRI)のスタッフがユーザーに代わって測定を行う「測定代行」利用制度を、試行期間を経て平成20年度より本格導入。

# 共用BL利用制度等変遷



# 利用者選定スキーム



多数の専門家による多層的・多面的な選定プロセスを経て、  
年間2,000件以上に及ぶ共用BL応募課題を選定

# 共用BL利用研究課題審査基準

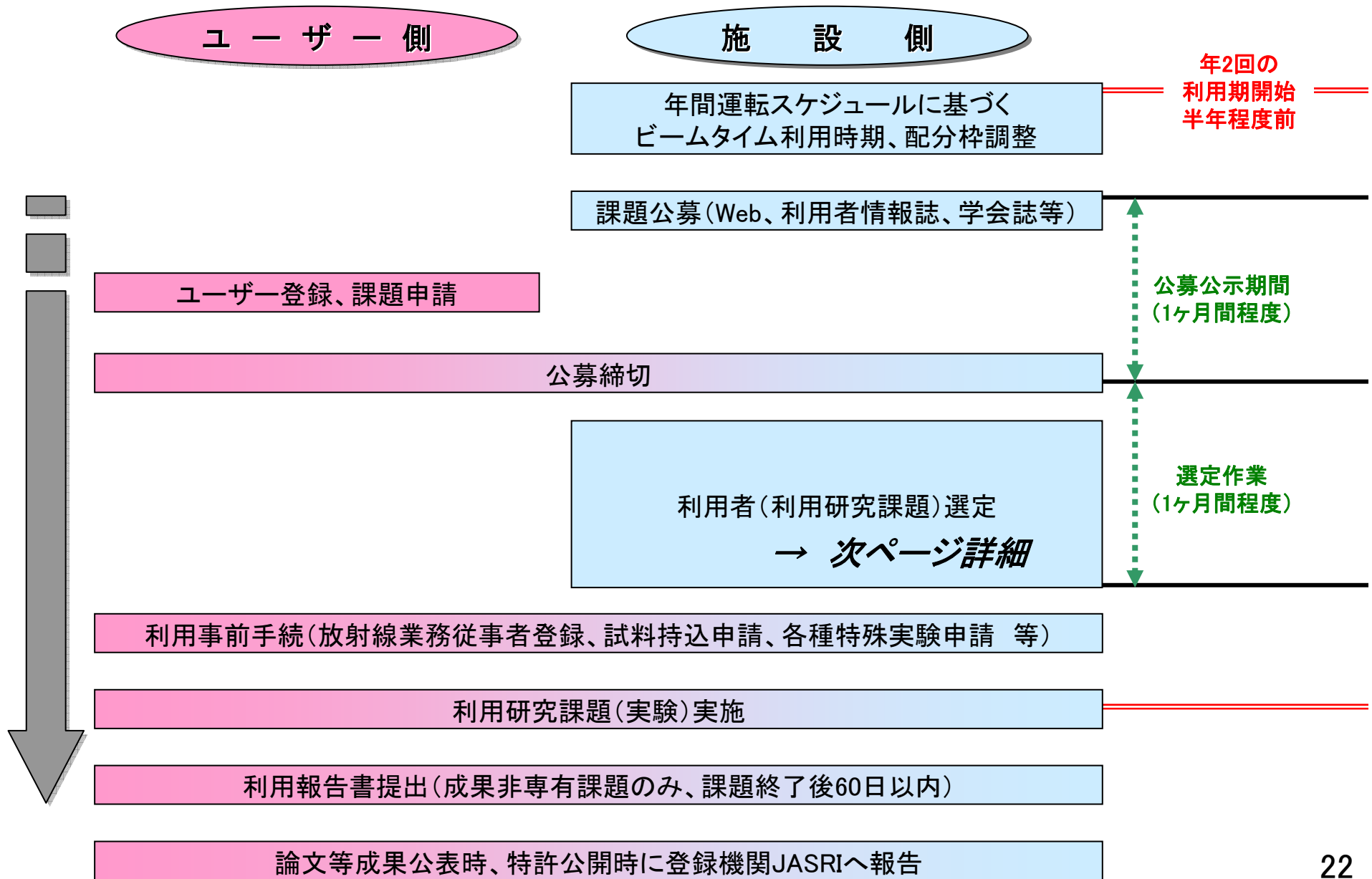
| 審査基準   | 課題の種類 | 成果非専有<br>課題 | 成果公開<br>優先利用<br>課題  | 成果<br>専有<br>課題 |
|--|-------|-------------|---|----------------|
| (1) 科学技術的妥当性<br>イ) 研究課題の先端性及び当該研究課題を含む<br>科学技術分野の発展性ないしは新分野開拓への寄与<br>ロ) 期待される研究成果の基礎的研究分野及び基盤<br>的技術開発分野への寄与度<br>ハ) 期待される研究成果の産業基盤技術としての重要性<br>及び発展性<br>ニ) 研究課題の社会的意義及び社会経済への寄与度<br><b>※「重点産業分科会」では、ハ)とニ)を重視して審査</b> |       | ○           | ×<br><br>競争的研究<br>資金獲得時<br>の審査結果<br>を尊重し、<br>二重の審査<br>を行わない | ×              |
| (2) 研究手段としてSPring-8の必要性  |       | ○           | ○   | ×              |
| (3) 科学技術基本法や社会通念等に対する妥当性   |       | ○           | ×(同上)   | ○              |
| (4) 実験の実施可能性   |       | ○           | ○   | ○              |
| (5) 実験の安全性   |       | ○           | ○   | ○              |

※重点研究課題においては、各利用研究分野等の特性に配慮した審査を行う。



# 利用の流れ

(共用BLにおける成果非専有利用の場合)



# 利用者(利用研究課題)選定

## ① BL技術審査及び安全審査

- ・課題(実験)の実施可能性や安全性について登録機関JASRIのBL担当者等が審査

## ② 科学分野別にレフェリー(全20分野/約180名)による評価

- ・申請者の論文発表状況についても評価  
(ユーザーの論文成果発表を促進するため、過去の論文発表状況を反映した課題審査の仕組みを平成17年度より導入)

## ③ 分科会(全8分科会/約50名)による審査

- ・長期利用課題は申請者のヒアリングを実施
- ・BL毎に一般課題/重点課題別の配分ビームタイムを調整

## ④ 利用研究課題審査委員会(約20名)による選定

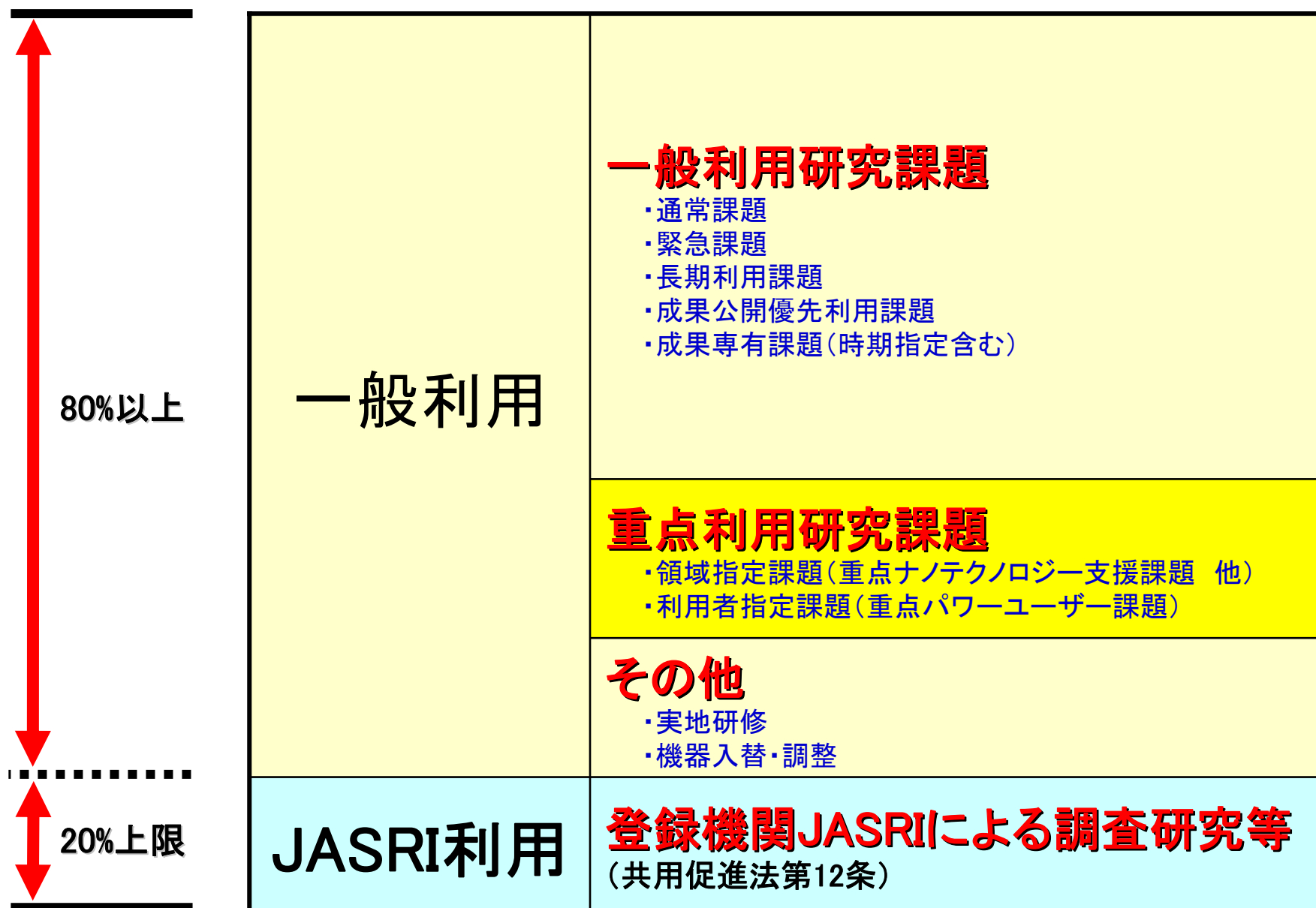
→ 登録機関JASRIが採否を決定、ユーザーへ通知、  
採択された利用者名を公表(課題名は利用研究実施後公表)

⑤ 選定委員会(12名)の意見聴取

### 共用促進法第16条に基づく選定委員会

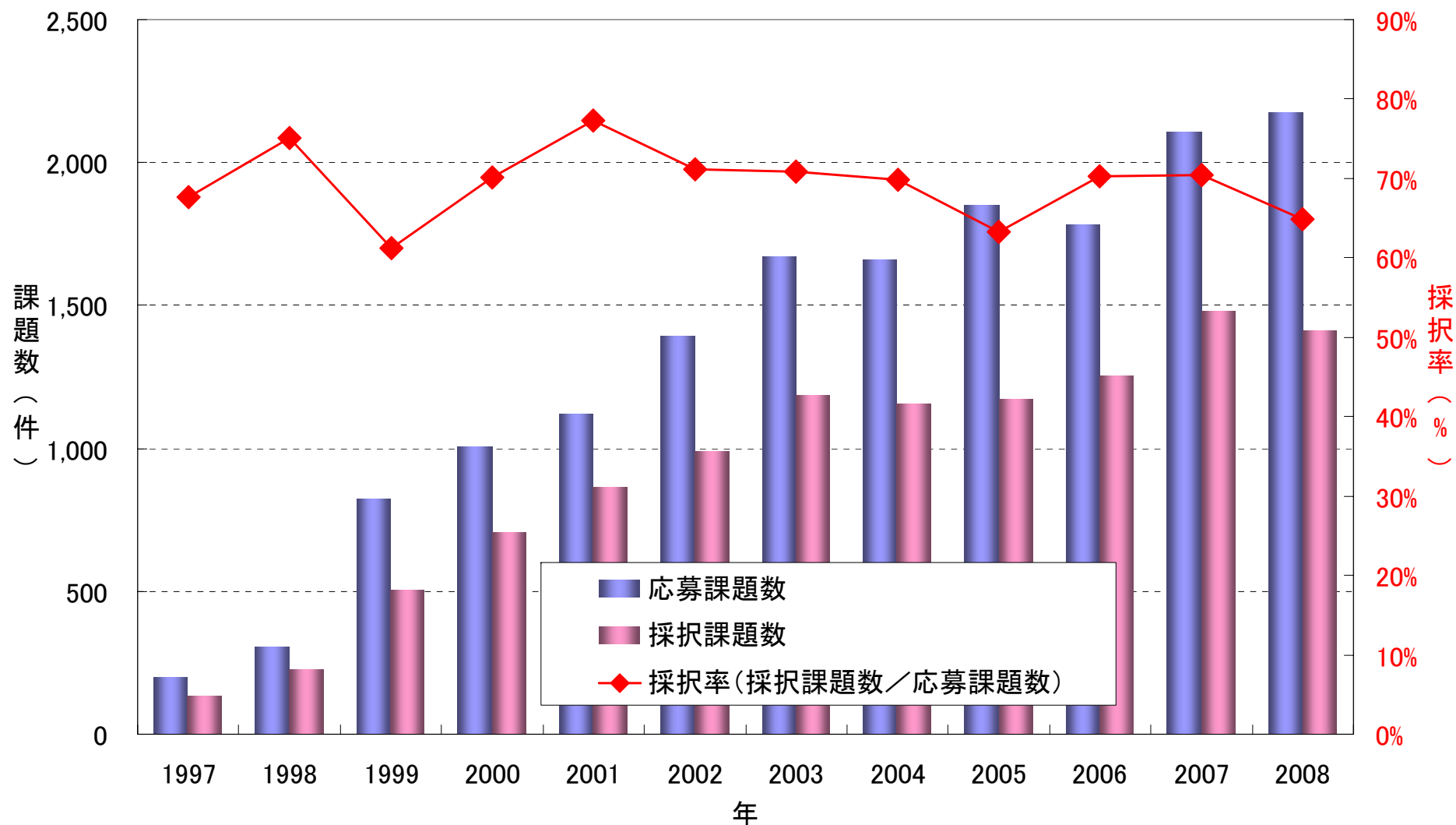
「登録機関は、利用者選定を行う場合は、施設利用研究に関し学識経験を有する者からなる選定委員会を設け、その意見を聴かなければならない。」

# 共用BLのビームタイム配分(全体)



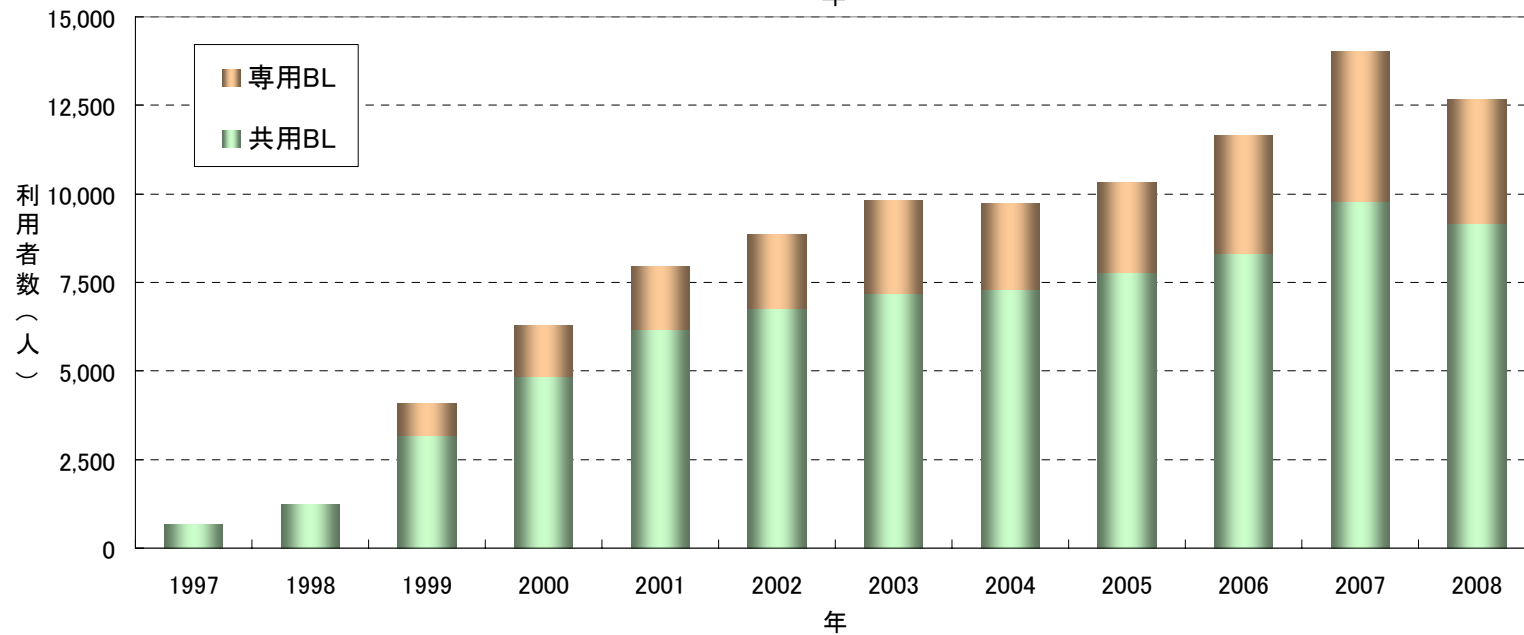
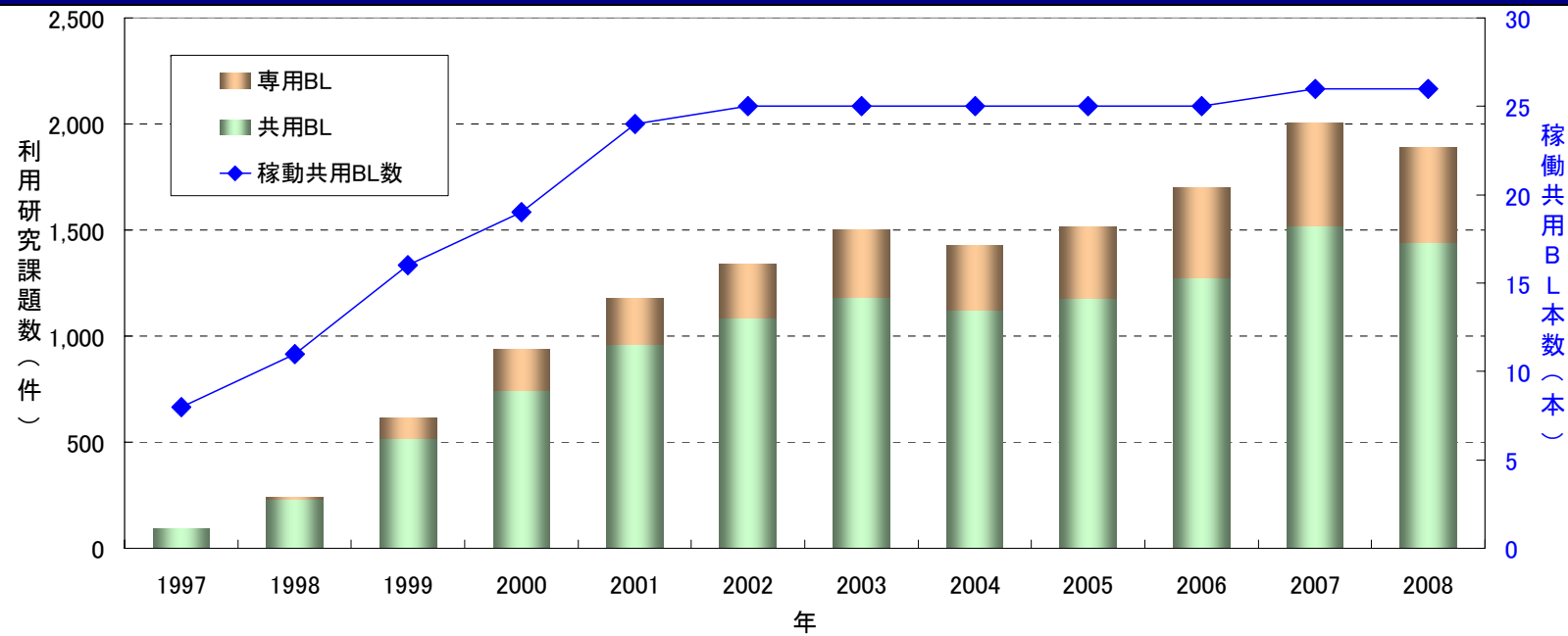
# SPring-8の利用状況

# 共用BL利用研究課題応募・採択状況



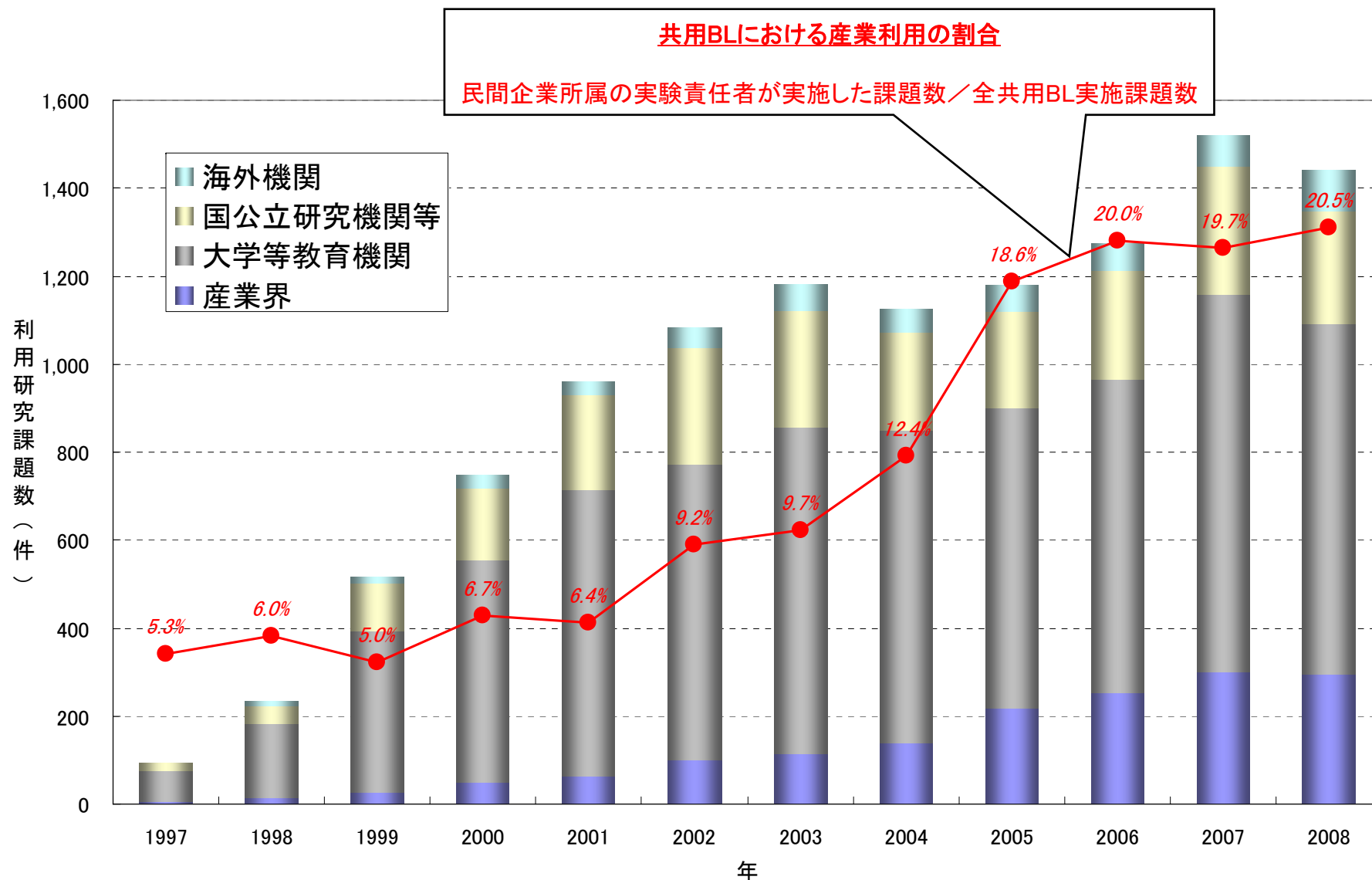
# 利用状況

(共用BL・専用BLの利用研究課題数、利用者数)



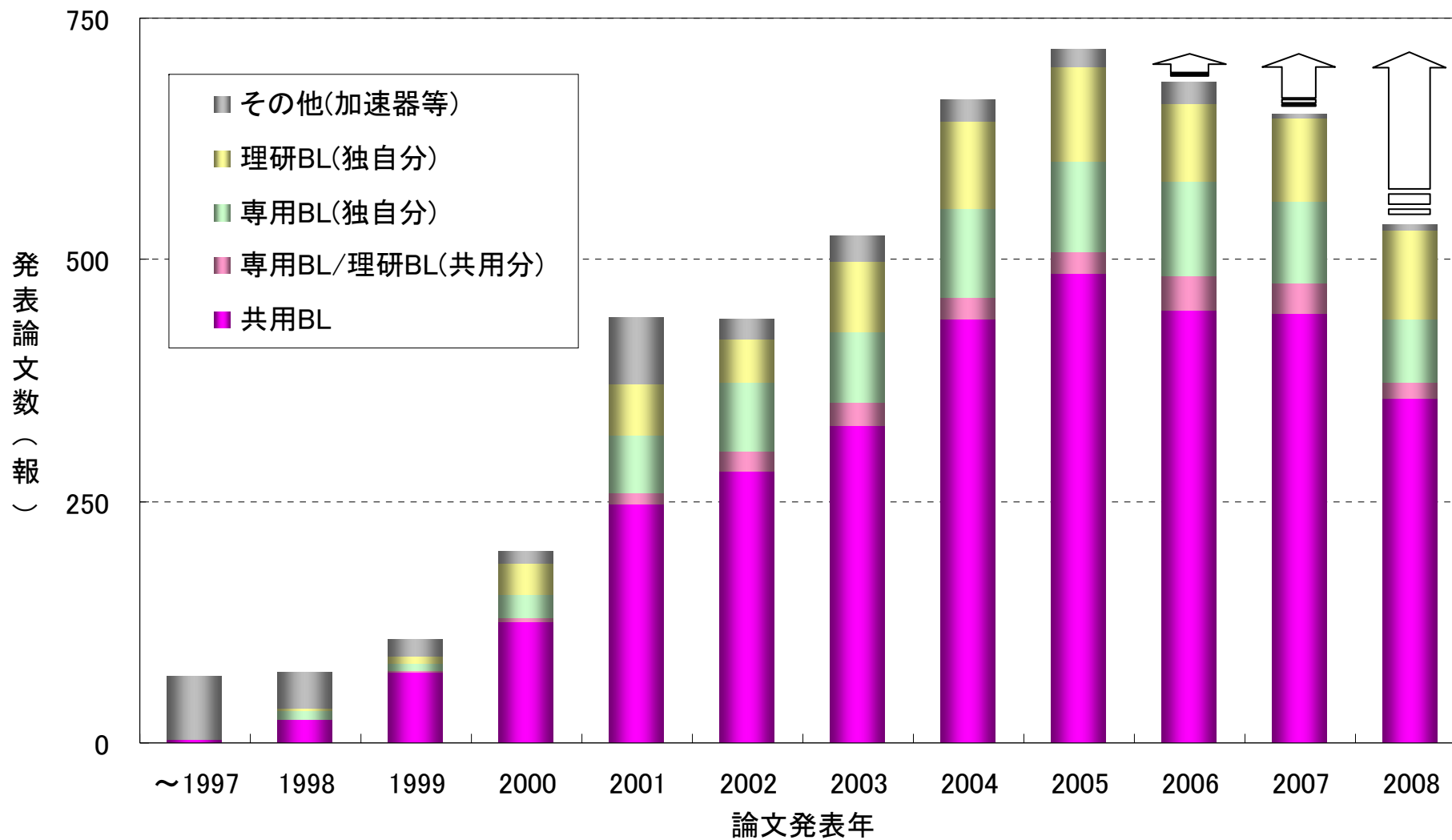
# 利用状況

(共用BL利用研究課題の実験責任者所属機関別)



# 論文発表状況

(査読有り原著論文等 2009年3月末集計時点)





# JASRIの経験則に基づく登録機関の共通留意事項

## 1. 登録機関とユーザーの関係

公平・公正な第三者機関である登録機関とユーザーの立場・役割の明確な区分(緊張関係、対等関係)が必要。一方で、優れた成果創出を促進するためには、密接な協力関係も必要。

## 2. 登録機関の研究機能

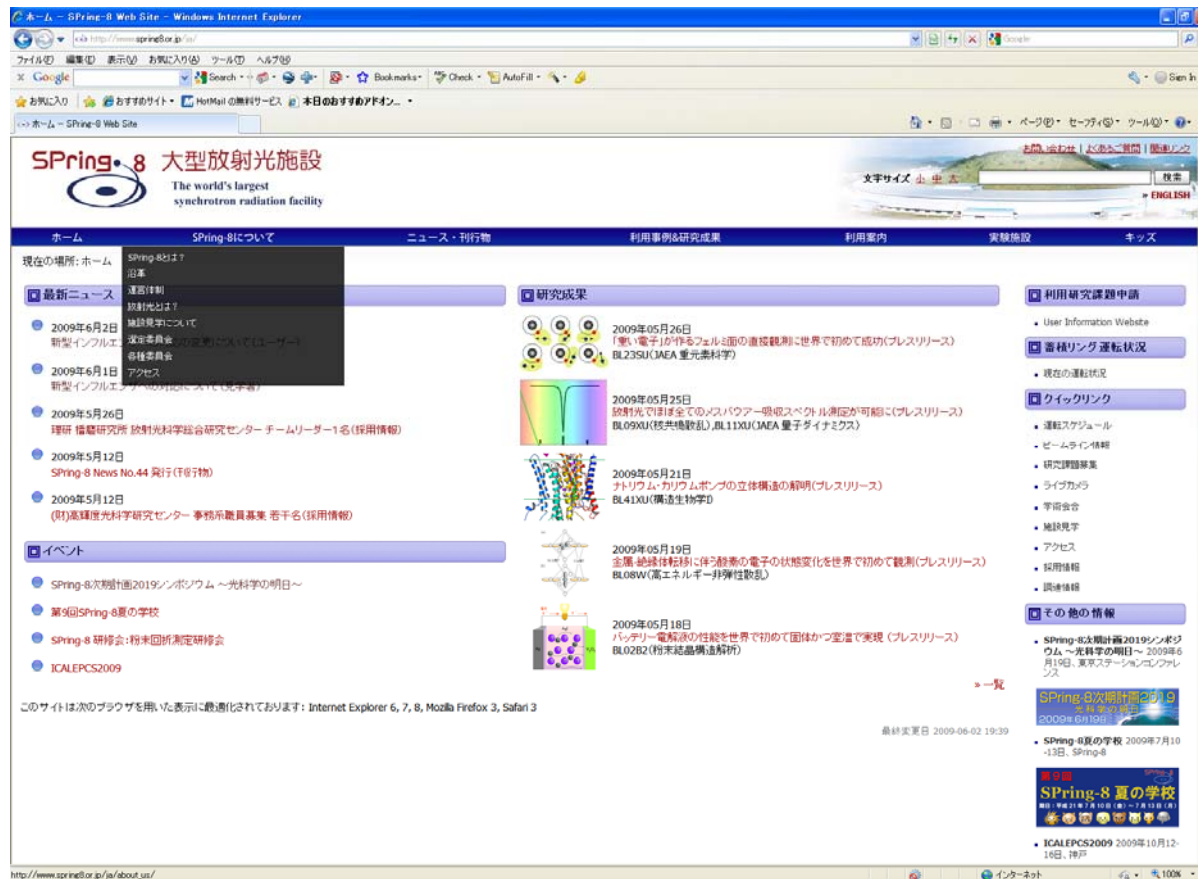
多くの優れた利用研究成果を創出するためには、登録機関が主体的に利用研究を先導することも必要であることから、支援スタッフは利用研究に関し高度な知見を有すること(共用促進法第12条に基づく施設利用研究の促進に資する調査研究の実施など)が必須。

## 3. 利用フェーズに応じた支援等

利用立ち上げ期、利用拡大期、成果創出拡大期等々利用フェーズの見極めと、各利用フェーズに応じた対応(利用制度の構築、支援体制の整備、支援施策の実施など)が重要。

# 最後に: SPring-8ホームページ

<http://www.spring8.or.jp/ja/>



SPring-8に関するあらゆる情報を網羅